

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 野村奈緒 内山百奏 楊飛悦
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャープペンどちらも準備)					
特記事項	メモをする習慣を身につける。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己分析	日常行動スコアシートを使用し、自身のタイプを知りクラス内や社会に出たときにどのような行動をすることが出来るのかを知り、考える。
2	偏愛マップをつくる	偏愛マップの作成をし、グループワークで仲間の特徴を知る。その後、他己紹介としてクラスの仲間の特徴をクラス全体に発表する。仲間の特徴を知り、発表することでプレゼン力を身に付ける。
3	クラス会議	テーマ『ハッピー探し』GWで起きた出来事・自身で行動したことなどハッピー探しをして自己肯定感を高める。
4	面接対策	4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
5	面接対策	前回のチームとは別の4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
6	クラス会議	テーマ『現代社会について、今とこれからで自分たちにできる事』
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『現代社会どのような人材が求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。 国家試験筆記問題
9	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。 国家試験筆記問題
10	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
11	自分の強みについて考える 国家試験筆記対策	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。 夏休み課題について 国家試験筆記問題
12	グループワーク 国家試験筆記対策	想定した顧客のニーズを満たせる真品を話し合い、売るという軸からブレない力を身に付ける。 例)鉛筆を3万円で売るにはどうしますか 国家試験筆記対策
13	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
14	定期試験 国家試験筆記対策	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内 国家試験筆記対策
15	定期試験振り返り 国家試験筆記対策	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える 国家試験筆記対策

科目名 (英)	化粧品化学 Cosmetic chemistry	年次	2	実務経験	担当	行川由希子
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日1限 水曜日3, 4限
講師紹介	日本理容美容教育センターの「化粧品化学」の研修課程を修了し認定資格に合格した講師が、経験を踏まえ化粧品の原料などをわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる化粧品についてを学ぶ。					
到達目標	化粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験					
教科書	化粧品化学・POINTBOOK	事前事後 学習と その内容	毎授業後に数問の選択問題あり。			
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、化粧品を理解するための基礎化学	高校化学の履修経験がなくても理解できるよう、基礎化学分野について学ぶ。
2	化粧品概論	化粧品とは何か、また、化粧品に関わる法律について学ぶ。
3	化粧品用原料	化粧品はどのような原料によって作られるのかを学ぶ。
4	界面活性剤	国家試験の頻出分野である界面活性剤についての基礎をしっかりと固める。
5	高分子化合物、色材	暗記項目を中心に学習する。
6	香料、その他の配合成分	暗記項目を中心に学習する。
7	中間試験	第1回～第6回までの内容について、どれほどの知識を習得できたのかを図る。
8	中間試験の復習	第1回～第6回までの内容について、苦手分野を確認する。
9	クリーム・乳液、その他の基礎化粧品	基礎化粧品について、日常生活とリンクさせながら学習する。
10	ネイル、まつ毛エクステンション用材料、皮膚洗浄用化粧品、化粧水	日常生活にあふれる化粧品を中心に学ぶ。
11	クリーム・乳液、その他の基礎化粧品	基礎化粧品について、日常生活とリンクさせながら学習する。
12	メイクアップ用化粧品	皮膚への影響を含め、メイクアップ用化粧品について学ぶ。
13	頭髮・毛髪用化粧品(シャンプー剤・スタイリング剤)	シャンプー剤とスタイリング剤について、含有成分を中心に学ぶ。
14	定期試験	前期の学習内容について、総復習を行う。
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	保健 Health	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1		曜日・時間	水曜日2～4限
講師紹介	ヴィダル・サスーンの名言「ヘアカットはお客をイスに座らせてチョキチョキすることじゃない。その骨格を研究することなんだ。」美容と保健は深い繋がりが。実際、サロンで保健の知識は重要でお客様に信頼と安心を提供できるように美容師経験を踏まえた目線で「保健」を楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	美容と保健の繋がりを理解することで、幅広い接客と安全に施術できる環境状態を判断することが、学生にとって技術提供をする前準備として重要な事だと知る。					
到達目標	美容と保健の重要性を深く理解することで、お客様に寄り添った施術構成を考えられるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 提出課題					
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター「保健」			事前事後 学習と その内容	①教科書の使い方とオリジナルノート作成に力をいれる。 ②美容と保健の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint・カルタ					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	教科書p12～21
2	骨格器系、筋系	教科書p22～37
3	神経系	教科書p38～41
4	感覚器系	教科書p42～47
5	血液・循環器系	教科書p48～55
6	消化器系	教科書p56～65
7	中間試験	第1～6回の全範囲
8	皮膚の構造	教科書p68～77
9	皮膚の付属器官の構造、皮膚の循環器系と神経系	教科書p78～93
10	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	教科書p94～107
11	皮膚と皮膚付属器官の保健	教科書p108～131
12	皮膚と皮膚付属器官の疾患	教科書p132～156
13	皮膚と皮膚付属器官の疾患	教科書p157～181
14	定期試験	第8～13回の全範囲
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	運営管理 Operational management	年次	2	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	月曜日2～4限
講師紹介	現役美容師の教員が、運営管理の学習を通じて、将来像やキャリアプランを想像できるような内容で授業を展開する。経営者の視点、顧客の視点、従業員の視点それぞれを持ちつつ、自分がどう選択していくか、今後の人生を豊かに設計できるようになってほしい。					
目的 科目概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営者の考え方や経営者が果たす責任、役割を学ぶ</li> <li>・人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ</li> <li>・顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ</li> </ul>					Ⅱ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験出題項目について、練習問題を解くことができる。</li> <li>・営者、顧客、従業員、それぞれの立場からの視点を持ち、考えることができるようになる。</li> </ul>					・経
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	国家試験対策用に授業プリントをファイリングしておくこと。 わからない単語が出てきたら、検索をして調べるなど自ら学びを深める工夫をする。	
教材	配布用プリント、タブレット適宜使用					
特記事項	運営管理用のファイルを用意するなど、後期まで管理してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	授業説明/経営とは/美容業界の現状	授業の説明・経営者の責任とは/経営資源とは何か
2	資金管理と会計	資金管理について学ぶ・会計、納税方法
3	税金について①	税金の種類と支払うタイミングについて
4	税金について②	申告納税制度・青色申告について
5	社会保険①	厚生年金について(制度・被保険者・給付・保険)
6	社会保険①	国民年金について(制度・被保険者・給付・保険)
7	中間試験	1～6回までの内容から 20点
8	社会保険②	健康保険について(制度・被保険者・保険)
9	社会保険②	国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療制度について(制度・被保険者・保険)
10	労働安全衛生法	労働安全衛生法と健康診断
11	人という資源・労務管理	労働三法、労働基準法を学ぶ
12	社会保険③	雇用保険について(制度・被保険者・給付について)
13	社会保険③	労働者災害補償保険について(制度・被保険者・給付について)
14	定期試験	8から13回までの内容から 50点
15	振り返り	1回～13回までの内容から振り返り

科目名 (英)	関係法規・制度 Related law and regulations system	年次	2年	実務経験	担当	宗像純子
		授業形態	講義			
		時間数	30時間	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	行政書士として法律実務に携わっております。自身が法律を学んだ経験から法律を学ぶコツ、国家試験での重要ポイントをみなさんにお伝えするとともに、法律がどのように実社会に関わりを持つのか、実際の事例をご紹介しますながら、法律を身近に感じてもらう授業をしたいと考えています。□					
目的 科目概要	目的:国家試験科目であることから、国家試験に十分合格できる基礎知識を習得する。特に美容師法は将来美容師となった際に直接関係するため、その具体的イメージを常に膨らませ基礎知識を学んでいく。 科目概要:法律が実生活とどう関わってくるのか、その場面をイメージすることを重視し、具体的事例を多く取り入れ、学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取れるために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」「どうして」という自ら考える力をつけることに重点を置く。					
到達目標	美容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的な場면을説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	教科書(関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター		事前事後 学習と その内容	事後学習に重点を置くことが望ましい。小テストの復讐はすぐに行い、知識の積み重ねに意識を向けて欲しい。		
教材	毎回配布するプリント					
特記事項	毎回プリントを配布するため、「関係法規」のファイル(フラットファイル)を用意すること。第一回目の授業で詳細をお伝えする。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	法制度の概要・法とは何か	難解と感じる法律について、まず法とは何かという点を理解する。具体的な事例を通じ、社会でどのように機能し、美容師となった場合にどのように関係してくるのか、法律の存在意義を知る。
2	美容師免許の取得方法	美容師養成施設へ入学し、国家試験を受け、免許を登録する、という美容師免許を取るためにするべきことを学ぶ。まさにこれから美容師免許を取得する自分がしなければならないことを知る。
3	用語の定義・美容師免許制度	普段使いの意味ではなく、法律上規定されている用語の意味をしっかりと理解する。「美容」「美容所」等の定義を学ぶ。免許の扱い方を学ぶ。美容師にとって美容師免許はとても大切なものであり、変更が生じた場合の対応の仕方を学ぶ。
4	美容師の守るべき義務	美容師になった際に最も気をつけなければならない、法律上美容師が負う義務を知る。
5	美容師に対する行政処分	美容師がやってはいけないことをした際にいかなる処分を受けるかについて学ぶ。美容師業務に大きな影響を及ぼすこのテーマの内容は今から意識し、絶対に処分を受けないようにする心構えを持つ。
6	管理美容師	「管理美容師」と呼ばれる、特別な資格を持った美容師について学ぶ。「管理美容師の仕事内容・資格の取得方法など管理美容師の全てを学ぶ。
7	定期試験・解説	試験を通じて自分の今の実力を知る。
8	美容所の開設	美容所をオープンさせることができる人は誰なのか、そしてそのためにはいかなる手続きを踏むべきなのか、流れと内容を習得する。自分が独立する際には必須となる知識を知る。
9	開設者が負う義務	開設者が美容所を開設した後に負うべき義務について、その内容と違反した場合のペナルティについて学ぶ。
10	立入検査・美容所以外の業務 行政機関・保健所・衛生行政	美容所を開設した後に行政が行う立入検査の内容を知る。さらに、例外的に美容所以外で美容業ができる場面を知る。美容師の社会での位置付けを知るために、いかなる分野の業種に振り分けられているかを学び、特に関わりの深い保健所の役割、業務内容、根拠法令を知る。
11	行政処分・罰則	美容師・開設者になった自分をイメージし、ペナルティとして受ける行政処分・罰則の内容を知るとともに、当事者にならないようにするべきこと、万が一当事者になった時にどうするべきか、の救済方法までを習得する。
12	関連法規その1	美容師法以外の美容師にまつわる法律を俯瞰する。「生衛法」、労働関係についての法律、「日本政策金融公庫法」について学ぶ。
13	関連法規その2	美容師法以外の美容師にまつわる法律を俯瞰する。「消費者基本法」など消費者にまつわる法律、「地域保健法」を学ぶ。
14	定期試験	試験を通じて自分の今の実力を知る。2回目の定期試験であるため、問題の解き方にも意識を向けて受ける。
15	定期試験の返却・解説・法律の全体像	定期試験の解説については、誤った問題については特に、どこをどう間違ったかの修正を行う。今までの総まとめとして、日本では法律に基づく行政がどのように行われているか、大きな視点から法律を押さえる。

科目名 (英)	衛生管理 Hygiene management	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	水曜日1、3、5限
講師紹介	現役美容師の講師が実践的な衛生における授業を行います。 実際にサロンで衛生管理の知識が重要でお客様に信頼と安心提供できるように美容師目線で「衛生管理」を楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	衛生管理が美容にとっていかに重要な役割があるかを教科書を通じて理解する。また、日常生活に役立つ知識を身につける。					
到達目標	単元ごとの重要ポイントを理解できるようになり、美容と結びつく説明ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 提出課題					
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター「衛生管理」			事前事後 学習と その内容	①教科書の使い方とオリジナルノート作成に力をいれる。 ②美容と衛生管理の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint・カルタ					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	感染症の概要と歴史	感染症とはどういう物であるのかまた先人たちの功績について学ぶ
2	感染症における分類	感染症の3つの分類について分類の特徴とそれに含まれる感染症について学ぶ
3	病原微生物の病原体の違いと特徴	病原微生物であるウイルスや細菌について組織成分や生活環境についての違いについて学ぶ
4	感染症各論 その1	呼吸器感染症について学ぶ
5	感染症各論 その2	消化器感染症について学ぶ
6	感染症各論 その3	血液・接触感染、動物等から感染する感染症について学ぶ
7	中間試験	感染症全範囲
8	消毒の仕組みと	微生物を殺菌、消毒などの言葉の意味と消毒における仕組みを学ぶ
9	理学的消毒法	紫外線、煮沸、蒸気消毒について学ぶ
10	化学的消毒法 その1	エタノールおよび次亜塩素酸ナトリウムの消毒について学ぶ
11	化学的消毒法 その2	界面活性剤2種およびグルコン酸クロルヘキシジンの消毒について学ぶ
12	希釈法 計算方法	カルピスを使って消毒液の希釈法の実験を体験する
13	被消毒物に対して適した消毒法	消毒をするものに対し素材等により最適な消毒法を学ぶ
14	期末試験	感染症および消毒法の全範囲
15	期末試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容技術理論 Beauty technological theoryⅢ	年次	2	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1		曜日・時間	水曜日2～4限
講師紹介	長年美容師、美容学校講師経験をしている講師が美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。理論を理解し、実習に役立てる。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	美容技術理論1・2	事前事後 学習と その内容	授業の後、復習をし実習では習った単元の場合、技術理論を思い出し実践できるように臨んでほしい。□			
教材	iPadなど、実習で使用する教材					
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	6章ヘアセッティング	教科書P158～179 解説 グループワーク
2	6章ヘアセッティング	教科書P158～179 解説 グループワーク
3	6章ヘアセッティング	教科書P179～218 解説 グループワーク
4	6章ヘアセッティング	教科書P158～218復習
5	中間試験について	序章、1章美容用具、6章ヘアセッティング
6	中間試験範囲の復習	序章、1章美容用具、6章ヘアセッティング
7	中間試験	序章、1章美容用具、6章ヘアセッティング
8	中間試験 振り返り・返却	中間試験の解説
9	判定試験に向けて	美容技術理論1の復習 グループワーク
10	判定試験に向けて	美容技術理論1の復習 グループワーク
11	判定試験に向けて	美容技術理論2の復習 グループワーク
12	定期試験について	美容技術理論2の復習
13	定期試験範囲の復習	美容技術理論1, 2の復習
14	定期試験	美容技術理論総復習
15	定期試験 振り返り・返却	定期試験の解説

科目名 (英)	美容実習 (第2課題ワインディング) Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	宮城裕美 行川由希子
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	2		曜日・時間	火曜日3, 4限 金曜日1~4限
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、美容師国家試験に合格するための専門的な知識・技術を習得する授業を行う。実習がメインの授業で、毎回新しい技術を学ぶため、遅刻欠席はしないように臨んでほしい。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験に合格できる知識と技術を習得する。概要:合格基準を理解し、正しいシザー開閉、シェーブ、姿勢を身に付けることが必要。					
到達目標	国家試験第一課題カットの手順を覚えることができる。設定時間内に完成することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■実技試験					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材	国試カットマニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習して次の授業に臨む。					
<b>授 業 計 画</b>						
回数			授業内容			
1	国家試験の流れ、準備物について		準備物、国家試験の流れの説明			
2	国家試験の流れ、準備物の確認		準備物、国家試験の流れで授業を行う 全頭23~25分			
3	国家試験の流れ、準備物の確認		準備物、国家試験の流れで授業を行う 全頭23~25分			
4	国家試験の流れ		全頭23~25分			
5	中間試験について		中間試験の採点項目を理解し作品を確認する			
6	中間試験の流れ		中間試験の採点項目に基づいて作品を確認する			
7	中間試験		練習 全頭25分			
8	中間試験 振り返り・返却		中間試験でできなかった箇所、部分の確認、練習			
9	衛生の確認、国家試験の流れ		ブロックごとにタイムを計る、全頭20~23分 センター・サイドの強化			
10	衛生の確認、国家試験の流れ		ブロックごとにタイムを計る、全頭20~23分 フロントの強化			
11	衛生の確認、国家試験の流れ		ブロックごとにタイムを計る、全頭20~23分 バックサイドの強化			
12	定期試験について		定期試験の採点項目を理解し、作品を確認する			
13	定期試験項目の確認		定期試験の採点項目に基づいて、作品を確認する			
14	定期試験		練習 全頭23分			
15	定期試験 振り返り・返却		定期試験できていなかった箇所、部分の確認、練習			

科目名 (英)	美容実習 (第2課題オール・ウェーブ・セッティング) Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	小坏亜矢子 本城美実
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	火曜日3, 4限 金曜日1~4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶ事の苦手意識が克服できるように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術を学び、国家試験に合格する力をつける。 概要:国家試験の採点項目に沿って、技術向上をお目指す。 科目:オール・ウェーブ・セッティング					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。全頭をタイム内でマニュアル通り忠実に作る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I		事前事後 学習と その内容 マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解し、習得できるよう復習する。			
教材	タブレット(teamsのマニュアル、動画)					
特記事項	マニュアル / 動画にたくさん細かい説明等を書きこむ。理解できなかった事は、その日に必ず質問し、理解しないままにしない。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	1年生の復習(4段目リフトカールまで30分)	・ローションの付け方 ・基礎の強化 ・左右ウェーブまで22分
2	1年生の復習(4段目リフトカールまで30分)	・ローションの付け方 ・基礎の強化 ・左右ウェーブまで20分
3	5段目逆リフトカールの導入	・左右ウェーブまで20分 ・リフトカール4分 ・逆リフトカール導入(4分)
4	5段目までのタイムとクオリティーアップ	・左右ウェーブまで18分(2段目まで6分、3段目カールまで12分) ・4. 5段目カール7分
5	5段目までのタイムとクオリティーアップ	・左右ウェーブまで18分(2段目まで6分、3段目カールまで12分) ・4. 5段目カール7分 ・中間試験採点項目について
6	5段目逆リフトカールまで25分	・左右ウェーブまで18分(2段目まで6分、3段目カールまで12分) ・4. 5段目カール7分 ・中間試験採点項目について
7	中間試験(20点)	・5段目逆リフトカールまで25分
8	左右ウェーブ、リッジの強化	・左右ウェーブまで18分(2段目まで6分、3段目カールまで12分) ・4. 5段目カール7分
9	左右ウェーブ、リッジの強化/6段目カール導入	・5段目逆リフトカールまで25分 ・6段目メイポールカール導入(3分)
10	左右ウェーブ、リッジの強化とタイムアップ	・左右ウェーブまで16分(2段目まで6分、3段目カールまで10分) ・4. 5. 6. 段目カール9分
11	左右ウェーブ、リッジの強化/7段目カール導入	・左右ウェーブまで16分(2段目まで6分、3段目カールまで10分) ・4. 5. 6. 段目カール9分 ★7段目クロッキノールカール導入
12	左右ウェーブ、リッジの強化/カールのクオリティアップ	・左右ウェーブまで16分(2段目まで6分、3段目カールまで10分) ・4~7段カール13分 ★定期試験採点項目について
13	全頭タイムで作る	・全頭30分 ・採点項目と作品の確認
14	定期試験(50点)	・全頭30分 ・採点、評価、各自の課題確認
15	振り返り	・期末試験で減点された所を出来るようにする

科目名 (英)	美容実習 (第1課題カット) Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 足立祐季
		授業形態	実習			
学科・専攻	美容師科	時間数	60	有	開講区分	前期
		単位	2		曜日・時間	火曜日3, 4限 金曜日1~4限
講師紹介	美容師として長きに渡り経験のある講師が、美容師国家試験に合格するための専門的な知識・技術を習得する授業を行う。実習がメインの授業で、毎回新しい技術を学ぶため、遅刻欠席はしないように臨んでほしい。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験に合格できる知識と技術を習得する。概要:合格基準を理解し、正しいシザー開閉、シェーブ、姿勢を身に付けることが必要。科目:第1課題カット					
到達目標	国家試験第一課題カットの手順を覚えることができる。設定時間内に完成することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■実技試験					
教科書						
教材	国試カットマニュアル・動画	事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、カットのスピードや正確さを高める。動画視聴による予習復習。			
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習して次の授業に臨む。					

授 業 計 画		
回数		授業内容
1	手順の復習	カット手順の復習。全頭カット45分。エアーカット40分。
2	タイム短縮と構成の理解を深める	第3ブロックまでの強化。全頭35分。エアーカット30分。
3	タイム短縮と構成の理解を深める	第2ブロックの強化。全頭35分。エアーカット30分。
4	タイム短縮と構成の理解を深める	第1ブロックとチェックカットの強化。全頭35分。エアーカット30分。
5	タイム短縮と構成の理解を深める	全頭カット30分。エアーカット25分。
6	タイム短縮と構成の理解を深める	全頭カット30分。エアーカット25分。
7	中間試験	全頭カット30分。
8	試験の振り返り・導入	評価を踏まえて課題の確認。国試合格レベルを目指した切り方の導入。
9	タイム短縮と構成の理解を深める	国試合格レベルを目指した切り方の手順を覚える。
10	タイム短縮と構成の理解を深める	国試合格レベルを目指した切り方の手順を覚える。
11	タイム短縮と構成の理解を深める	全頭カット25分。エアーカット20分。
12	タイム短縮と構成の理解を深める	全頭カット25分。エアーカット20分。
13	タイム短縮と構成の理解を深める	全頭カット25分。エアーカット20分。
14	定期試験	全頭カット25分。
15	試験の振り返り	評価を踏まえて課題の確認。

科目名 (英)	美容総合技術 (専攻別) Comprehensive beauty technology	年次	2	実務経験	担当	福島裕司 大和田一樹 足立祐季 青柳光子 荒谷健太 武田郁乃 岩本理絵 野村奈緒
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	180	有	開講区分	前期
		単位	6		曜日・時間	火1・2/木1~4限
講師紹介	美容室・ヘアメイク現場・ブライダル業界などの各美容業界で活躍しており、高い技術力と多様な知識を持っている講師から、美容業界の現場で必要とされる知識、技術を実践的に活用できる授業の提供する。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容		
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 野村奈緒 内山百奏 楊飛悦
		授業形態	演習			
		時間数	30			
学科・専攻	美容師科	単位	1	有	開講区分	後期
					曜日・時間	金曜日2～4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書			事前事後 学習と その内容			
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャープペンどちらも準備)					
特記事項	メモをする習慣を身につける。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マネー教育・7つの習慣 国家試験対策	給与や保険について・7つの習慣とは何かを学ぶ 第6章 社会人としての自分を守り高める 選挙権について 国家試験対策問題
2	社会人基礎力を身に付ける① 国家試験対策	チームで働く力をグループワークで学ぶ 国家試験対策問題
3	社会人基礎力を身に付ける② 国家試験対策	新社会人の基礎力109より 『社会人基礎力』とは何か? 求められる3つの能力と12の能力要素 国家試験対策問題
4	社会人基礎力を身に付ける③ 国家試験対策	前に踏み出す力/主体性—ものごとに進んで取り組む力 前に踏み出す力/働きかけ力—他人に働きかけ巻き込む力 国家試験対策問題
5	社会人基礎力を身に付ける④ 国家試験対策	前に踏み出す力/実行力—目標を設定し確実に実行する力 考え抜く力/課題発見力—現状を分析し目的や課題を明らかにする力 国家試験対策問題
6	社会人基礎力を身に付ける⑤ 国家試験対策	考え抜く力/計画力—課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 考え抜く力/創造力—新しい価値を生み出す力 国家試験対策問題
7	中間試験	社会人基礎力について(作文) 今まで学んできた社会人基礎力を今後どのように生かしていくか。 国家試験対策問題
8	社会人基礎力を身に付ける⑥ 国家試験対策	チームで働く力/柔軟性—意見の違いや立場の違いを理解する力 チームで働く力/状況把握力—自分と周囲の関係を理解する力 国家試験対策問題
9	社会人基礎力を身に付ける⑦ 国家試験対策	チームで働く力/規律力—社会のルールや人との約束を守る力 チームで働く力/ストレスコントロール力—ストレスの発生源に対応する力 国家試験対策問題
10	社会人基礎力を身につける⑧ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 社会に出るにあたっての決意を固めておく・3ヵ月頑張れば3年頑張れる 国家試験対策問題
11	社会人基礎力を身につける⑨ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 契約することの重みを知っておこう・悪質な商法にひっかからない、加担しない 国家試験対策問題
12	社会人基礎力を身につける⑩ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 各種保険の知識・賃貸住宅の借り方と住まい方の常識 国家試験対策問題
13	社会人基礎力を身につける⑪ 国家試験対策	第5章 企業人として遵守すべき規範とは なかなかなくなるならない悪徳商法の例Ⅰ・なかなかなくなるならない悪徳商法の例Ⅱ 国家試験対策問題
14	定期試験	2年間の学びの中で自身の成長につながった出来事は何か。また、その経験が今後どのように活かされるか(作文) 国家試験対策問題
15	定期試験振り返り	定期試験の振り返り・国家試験対策問題の振り返り

科目名 (英)	化粧品化学 Cosmetic chemistry	年次	2	実務経験	担当	行川由希子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1		曜日・時間	木曜日2～4限
講師紹介	日本理容美容教育センターの「化粧品化学」の研修課程を修了し認定資格に合格した講師が、経験を踏まえ化粧品の原料などをわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる化粧品についてを学ぶ。					
到達目標	化粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■筆記試験					
教科書	化粧品化学・POINTBOOK		事前事後 学習と その内容	毎授業後に数問の選択問題あり。		
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
2	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
3	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
4	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
5	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
6	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
7	中間試験	8回～13回の内容で試験を行う
8	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
9	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
10	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
11	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
12	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
13	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
14	定期試験	全範囲から
15	振り返り	定期試験の振り返り

科目名 (英)	美容技術理論 (I) Beauty technological theory	年次	2	実務経験	担当	加藤亜希
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	金曜日2～4限
講師紹介	長年美容師、美容学校講師経験をしている講師が美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	美容技術理論の教科書を中心に基礎知識を理解し、習得する。国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
到達目標	美容技術理論の基礎知識の復習と理解度を高める。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品 □ 提出課題					
教科書	美容技術理論1・2			事前事後 学習と その内容	授業の後、復習をし実習では習った単元の場合、技術理論を思い出し実践できるように臨んでほしい。□	
教材	iPadなど					
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容技術理論1・2復習	後期授業の進め方について 復習、〇×問題
2	美容技術理論1・2復習	復習、〇×問題 グループワーク
3	美容技術理論1・2復習	復習、〇×問題 グループワーク
4	美容技術理論1・2復習	復習、〇×問題 グループワーク
5	中間試験について	復習、〇×問題 グループワーク
6	中間試験範囲の復習	1～5回までの復習、〇×問題
7	中間試験	1～5回までの単元
8	中間試験 振り返り・返却	中間試験の解説
9	美容技術理論1・2復習	復習、〇×問題 グループワーク
10	定期試験①について	復習、〇×問題 グループワーク
11	定期試験①	美容技術理論総復習
12	定期試験②について	定期試験の解説
13	定期試験②	復習、〇×問題 グループワーク
14	定期試験① 振り返り・返却	美容技術理論総復習
15	定期試験② 振り返り・返却	定期試験の解説

科目名 (英)	美容技術理論 (Ⅱ) Beauty technical theory	年次	2	実務経験	担当	本城美実
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	木曜日2～4限
講師紹介	現役美容師の講師が、国家試験筆記対策に向けた講義を行います。実際の実務にリンクできるような提案をめざします。					
目的 科目概要	国家試験対策(筆記)として、教科書の内容と、練習問題を解けるようにすること。美容師として、業界の必要な知識を、学び、実際のサロンワークなど、経験値と結びつける練習をしていく。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本の名称や、手順、目的を理解し覚え、最終的に、国家試験(筆記)の練習問題を解くことができる。</li> <li>過去問など実施し、問題の傾向と対策を繰り返し練習し、70%以上の正答を目指す。</li> </ul>					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 作品 <input type="checkbox"/> 提出課題					
教科書	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	名札・持ち物などの忘れ物がないように、整理整頓して授業を始める準備をしましょう。模擬試験があった場合は、その問題用紙を次の授業に持ってくること(見直し、振り返りをかならず行う)	
教材	配布用プリント、チームズなど適宜使用					
特記事項	教科書、配布物用のファイル、蛍光ペン、筆記用具は必須です。					

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
2	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
3	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
4	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
5	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
6	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
7	中間試験	8回～13回の内容で試験を行う
8	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
9	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
10	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
11	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
12	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
13	国試対策	練習問題/強化する単元/(模試の振り返り)
14	定期試験	全範囲から
15	振り返り	定期試験の振り返り

科目名 (英)	文化論 Theory of cultural	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・専攻	美容師科	単位	1		曜日・時間	金曜日2～4限
講師紹介	スタイルとして海外実務経験の中で実際に海外文化を学びました。そして日本文化の素晴らしさは海外でも関心が高いこともわかりました。ファッションには歴史があり、現代ファッションに大きく関係しています。日本独特のファッション文化の成り立ちも楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	国家試験過去問題演習をすることで、問題の傾向と内容を理解する。					
到達目標	国家試験に合格できるように確実に教科書を理解することができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」		事前事後 学習と その内容	国家試験対策として問題演習を繰り返すことで、確実に年代を理解することができるようになる。		
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	第3章 ファッション文化史 日本編	第6節 近代 ⑥明治時代 第7節 近代 ⑦大正時代 第8節 近代 ⑧昭和20まで 問題演習
2	第3章 ファッション文化史 日本編	第9節 現代 ⑨1945年～1950年代 第10節 現代 ⑩1960年代～1970年代 問題演習
3	第3章 ファッション文化史 日本編	第11節 現代 ⑪1980年代～1990年代 第12節 現代 ⑫2000年代～2010年代 問題演習
4	第5章 礼装の種類	第1節 和装の礼装 ①花嫁衣装 ②女性の礼装
5	第5章 礼装の種類	第1節 和装の礼装 ③女性の準礼装 ④男性の礼装
6	第5章 礼装の種類	第2節 洋装の礼装 ①男性の礼装 ②女性の礼装
7	総合まとめ I	後期 中間試験
8	総合まとめ II	ファッション文化史 第6節～第12節まとめ
9	第5章 礼装の種類	第1節 和装の礼装 問題演習
10	第5章 礼装の種類	第2節 洋装の礼装 問題演習
11	文化論 総合	国家試験過去問題演習と解説
12	文化論 総合	国家試験過去問題演習と解説
13	文化論 総合	国家試験過去問題演習と解説
14	総合まとめ I	後期 期末試験
15	総合まとめ II	ファッション文化史 日本編 第3章 第6節～第12節 総合まとめ 第5章 第1節～第2節 総合まとめ

科目名 (英)	衛生管理 Hygiene management	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
学科・専攻	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1		曜日・時間	木曜日2～4限
講師紹介	現役美容師の講師が実践的な衛生における授業を行います。実際にサロンで衛生管理の知識が重要でお客様に信頼と安心提供できるように美容師目線で「衛生管理」を楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	衛生管理が美容にとっていかに重要な役割があるかを教科書を通じて理解する。また、日常生活に役立つ知識を身につける。					
到達目標	単元ごとの重要ポイントを理解できるようになり、美容と結びつく説明ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 提出課題					
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター「衛生管理」			事前事後 学習と その内容	①教科書の使い方とオリジナルノート作成に力をいれる。 ②美容と衛生管理の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint・カルタ					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	公衆衛生の復習 その1	WHOや歴史上の人物の功績、美容師と公衆衛生の関わりについて国家試験レベルまで復習する
2	公衆衛生の復習 その2	母子保健、成人・高齢者保健について国家試験レベルまで復習する
3	公衆衛生の復習 その3	精神保健について国家試験レベルまで復習する。
4	環境衛生の復習 その1	人間における環境要因、空気の環境について国家試験レベルまで復習する。
5	環境衛生の復習 その2	衣服・住居の衛生、上下水道と廃棄物について国家試験レベルまで復習する
6	環境衛生の復習 その3	衛生害虫とネズミ、衛生管理要領について国家試験レベルまで復習する。
7	公衆衛生・環境衛生 確認テスト	1～6までの内容について知識の確認をすると共に解説することで知識のフィードバック
8	感染症の復習 その1	感染症の歴史・分類について国家試験レベルまで復習する
9	感染症の復習 その2	病原微生物の大きさや構造および生活環境、感染症の予防について国家試験レベルまで復習する。
10	感染症の復習 その3	呼吸器および消化器感染症について国家試験レベルまで復習する。
11	感染症の復習 その4	血液・接触感染および動物からの感染症について国家試験レベルまで復習する。 感染症 確認試験
12	衛生管理技術の復習 その1	消毒についての基礎知識を国家試験レベルまで復習する。
13	衛生管理技術の復習 その2	各種消毒法および材質による消毒法について国家試験レベルまで復習する。
14	期末試験	
15	期末試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容実習 (国家試験対策) Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	宮城裕美 小坏亜矢子 竹内有美 本城美美 足立祐希 行川由希子
		授業形態	実習			
		時間数	180	有	開講区分	後期
学科・コース	美容師科	単位	6			
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的: 国家試験にむけて全頭20分で負けるようにする 概要: 衛生の用具や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	美容師の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。( )は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I			事前事後 学習と その内容	必要な用具類は早めに準備し忘れ物のないように臨んでください。	
教材	WD用具一式					
特記事項	用具の使い方や指の動きを自分で分析し確認していくこと					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	国家試験の衛生について	準備物の説明 衛生試験説明
2	準備物の確認	タイムトライアル
3	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
4	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
5	中間試験について	タイムトライアル
6	中間試験の流れ	タイムトライアル
7	中間試験	タイムトライアル
8	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
9	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
10	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
11	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
12	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
13	定期試験について	衛生審査項目、時間配分確認、実技審査項目把握
14	定期試験の流れ	衛生審査項目、時間配分確認、実技審査項目把握
15	定期試験	本番同様の試験実施